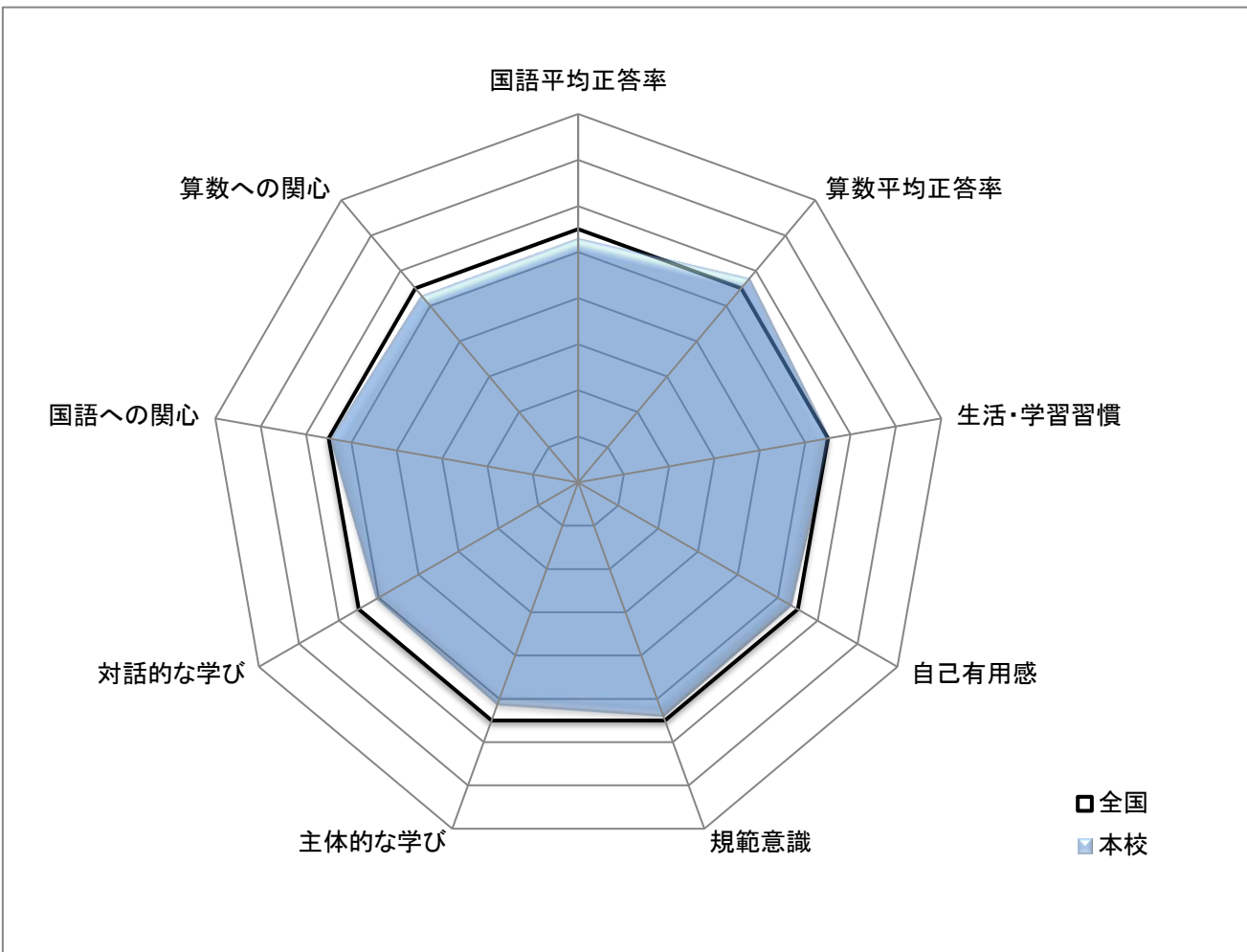


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



○どの項目においても、全国平均と比べて大差はない。平均正答率は、国語は低めで、算数は高めである。
 ○算数の平均点は昨年度に比べ高く、全国平均を超えている。
 ○関心については、国語も算数も全国平均とほぼ同程度である。
 ○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだり、学習したことを生かして自分の考えをまとめたりするような、主体的な学びの姿勢や対話的な学びの姿勢が全国平均と比べてやや低い傾向が見られる。
 ○「人が困っているときに進んで助けたい」「人の役に立ちたい」などの規範意識や「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」などの自己有用感は全国平均とほぼ同程度である。

《現状把握》

【国語】
 ○すべての項目で全国平均を下回っている。
 ○特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「記述式」の区分で大きく下回っている。
 ○「読むこと」に関しては、全国平均と同値である。
 ○物語文の読解においては、正答率が全国平均を超えている設問がある。
 【算数】
 ○各領域において、基礎的な問題に関する正答率は都の平均と同等、もしくは上回っている。
 ○特定の領域に弱点は見られないが、特定の設問に対して正答率が都平均より6～9ポイント下回る特徴がある。弱点と見られる設問は「言葉と数を使って書きましょう。」という記述式の解答を求められる設問である。

《授業改善のポイント》

【国語】
 ○話を聞き、内容をメモすることなどの学習を通して、必要な情報を聞き取る力を伸ばす。
 ○作文の学習を通して、既習漢字の習熟や文章の書き方を学ぶ。
 ○日ごろから、話型などをもとに自分の意見を述べられるよう、対話の時間を意図的に設定する。
 ○3年生以上で「よむYOMUワークシート」や新聞記事を題材にした教材を活用し、読み解く力や自分の意見を表現する力の向上を図る。
 【算数】
 ○基礎的な問題の正答率は、各領域において特に課題が見られない。従来通り、タブレットを活用したドリル学習を推進していく。
 ○数字や言葉を使って、考えの根拠を説明する設問に弱点が見られたため、普段の授業の中で、記述で回答する設問を意図的に増加させていく。特に今年度より活用している「アイテム算数」の中から同様の問題をピックアップして取り組ませる。

《家庭・地域への働きかけ》

○学習状況調査結果を家庭と共有する。家庭からも学習面、生活面についての指導の協力を仰ぐ。
 ○授業以外でも児童が自発的に学習を続けられるよう、放課後補習教室やドリルパークを活用した家庭学習を推進していく。